

福山大学大学院 人間科学研究科 平成30(2018)年度 自己点検・評価書

基準1. 使命・目的等

領域：使命・目的、教育目的

2018年度

人間科学研究科

中長期計画	・国家資格公認心理師に対応した理念・目的の見直し、学内周知、社会的周知の徹底。 ・理念・目的に即したアドミッション・ポリシー、ディプロ・マポリシー、カリキュラム・ポリシーの見直し。 ・心理学の専門教育を基礎に、対人援助職、研究職、博士課程への進路を保障する。

2018年度

人間科学研究科

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等のそれぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	「人間科学研究科心理臨床学専攻は、現代社会における心の健康に関する理解を深め、高度な専門知識と論理的思考力を伴う研究実践力及び様々な臨床の場に対応できる対人援助実践力を修得した人材を養成する。特に、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理支援に関する専門家として援助と提案ができる人の育成を目指す。」としている。
年度目標	この目的を具現化するための教育目標を明確にする。
年度報告	公認心理師資格に対応したカリキュラムを整備した。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①2018年度学生便覧(人間科学研究科の教育目的)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	公認心理師資格への対応が優先課題であり、個性・特色は明確でない。
年度目標	本研究科の特色を明確にする。
年度報告	研究力を有する心理職をめざすべく、ディプロマ・ポリシーに明記しているが、特色を打ち出すには至っていない。
達成度	B
改善課題	学科との連続性を考慮して、本研究科の特色づくりを進める必要がある。
根拠資料	①2018年度学生便覧(人間科学研究科の教育目的)
次年度の課題と改善の方策	研究科の教員の間で議論と検討を継続して行う必要がある。
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	国家資格への期待に応えることを優先し、その他の社会の要請は考慮していない。
年度目標	幅広い社会の要請に応えるべく、資格以外の特色を打ち出す必要がある。
年度報告	公認心理師資格への対応にとどまっている。
達成度	B

改善課題	地域社会(心理の現場を含む)のニーズやより幅広い社会の変化をとらえきれていない。
根拠資料	なし
次年度の課題と改善の方策	心理の現場や高校、学部生などへのニーズ調査、他大学の教育内容の調査を行うのも一案であろう。

2018年度

人間科学研究科

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	研究科長等協議会・評議会で研究科の目的や教育内容などを説明し理解を得ている。
年度目標	新たに始まった公認心理師資格について学内者の理解を得ていく。
年度報告	研究科長等協議会・評議会で本研究科の教育内容は随時行っているため、全学的な理解は得られていると考えられる。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①研究科長等協議会議事録 ②評議会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し周知していますか。
現状説明	学生便覧、HP、大学院案内(パンフレット)等で公表している。その他、大学院説明会を他の研究科と合同で宮地記念館で行った。
年度目標	より効果的な方法を検討して実行する。
年度報告	従来通りのことを行い、ある程度学内外に周知されたと考えられるが、より効果的な方法を検討すべきである。
達成度	A
改善課題	より効果的な方法を検討して実行する。
根拠資料	①人間科学研究科パンフレット ②公認心理師チラシ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画へ反映していますか。
現状説明	公認心理師資格への対応を急ぐあまり、中長期的計画が明確に設定されていない。
年度目標	中長期的計画を早急に策定する。
年度報告	研究力と実践力の双方を有する人材育成を行うという合意はおおむね得られているが、中長期計画として明記されていない。
達成度	A
改善課題	目標をより具体化していく必要がある。

根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーへ反映していますか。
現状説明	教育目的は3つのポリシーに反映されていると考える。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①2018年度学生便覧(人間科学研究科の教育目的、3ポリシー)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	公認心理師資格に関連した分野を網羅し、かつ基礎・実験系の教員も配置し、研究力のある心理職養成を企図した研究教育組織となっている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	新たな採用人事は、教育臨床、医療心理学、犯罪心理学、社会心理学の分野で行った。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

人間科学研究科

基準2. 学生

領域：学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2018年度

人間科学研究科

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・定員確保に向け最大限の努力を払う。 ・院生の研究と学修をサポートする指導体制の確立。 ・院生とのコミュニケーションを円滑に図り、教育の改善と研究の推進を図る。
-------	--

2018年度

人間科学研究科

中点検項目	2-1. 学生の受け入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	アドミッション・ポリシーは、大学HP、パンフレット、学生募集要項に明記され周知されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S

改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①人間科学研究科学生募集要項 ②人間科学研究科パンフレット ③人間科学研究科HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	毎年の入試結果をふまえて、学生募集の方針を立てている。
年度目標	公認心理師の国家試験を視野に入れた学生募集に転換する必要がある。
年度報告	入試説明会や入試の面接で進学動機を確認し、ほぼ全員が資格取得を希望していることを確認した。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	研究科委員会で入試の総括を行うが、詳細な分析・記録等は行っていない。
年度目標	入試データと分析結果を蓄積するようにする。
年度報告	入試データと分析結果について入試委員会で検討した。
達成度	A
改善課題	長期的なスパンでの分析が必要である。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	独自のパンフレットを作成、学内外での説明会等を行ってきたが、競争が激化し定員割れが続いている。
年度目標	本学心理学科の学生への動機づけを高め、学内進学者を増やすことを目標にする。
年度報告	学内進学者は現状維持であった。
達成度	B
改善課題	学内進学者以外の受け入れも一定数必要である。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	公認心理師養成に特化するならば、学部生への動機づけやレディネス形成が必要である。

中点検項目 2-2. 学修支援	
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	大学院生の学修体制・学習環境の整備については、研究科委員会で協議し、事務と協力して実行している。
年度目標	そのことについて学内外に周知するようにする。
年度報告	周知は十分とは言えない。
達成度	C
改善課題	学部事務他、事務局や大学の諸機関の役割について、オリエンテーションやHP等で周知する必要がある。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	学部事務他、事務局や大学の諸機関の役割について、オリエンテーションやHP等で周知する必要がある。
点検項目 ② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。	
現状説明	心理学科の統計や実験・実習の授業にTAとして、また学習支援にピアカウンセラーとして参加している。
年度目標	TAを他の授業(英語など)に拡充することを検討する。
年度報告	従来の統計、実験・リサーチ実習のほかに専門英語でもTAを活用した。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①平成30年度ティーチング・アシスタント経費計画調書
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 2-3. キャリア支援	
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	公認心理師資格取得に必要な実習科目を通してキャリア形成を支援するしくみとなっている。
年度目標	学内外実習科目で対人援助スキルの習得をめざす。
年度報告	事前指導、実技試験、学内外実習、スーパービジョンに関する科目を整備し、実施に移すことができた。
達成度	S
改善課題	院生のレディネスが十分に育っているとは言えない状況であった。
根拠資料	①平成30年度人間科学研究科実習要綱他、実習関連資料

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間に亘る資料を収集し、検証していますか。
現状説明	教員が共有できるフォルダに過去3年間の修了生の進路先のデータを記載し、研究科教員会議や研究科委員会で検証している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①人間科学研究科修了生就職・進路状況表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	民間の資格の臨床発達心理士に加え、国家資格である公認心理師の受験資格をサポートするようになった。
年度目標	公認心理師カリキュラム(実習を含む)を遺漏なく運営していく。
年度報告	カリキュラムを整備し、公認心理師資格取得に必要な学内外実習を開始した。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①平成30年度人間科学研究科実習要綱他、実習関連資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。
現状説明	ゼミ担、就職委員、就職課の連携により、心理の専門職をめざした就職支援を行っている。博士課程への進学指導も行っている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①人間科学研究科修了生就職・進路状況表
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 2-4. 学生サービス	
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	福山大学大学院奨学生の制度があり、本学出身者に適用される。社会人や他大学からの学生には奨学制度がないのは問題であろう。留学生には国費留学生や民間の奨学生を申請する機会がある。私費留学生のための減免制度もある。TAは経済的な支援の意味ももつていてるので、この枠を増やすのが望ましい。
年度目標	他大学出身者や社会人のための経済的支援、TAの拡充を検討する。
年度報告	社会人への経済的支援はTA以外、拡充されなかった。
達成度	B
改善課題	社会人対象の奨学制度を全学的に検討したい。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	研究科長等協議会で、社会人対象の奨学金制度を検討することを提案したい。
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。
現状説明	福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドラインがあり、相談窓口として各学部にハラスメント相談員が2名配置されている。一連の手続き等は大学HPや掲示版に掲載されている。
年度目標	全学の取り組みに従う他、オリエンテーションなどで周知する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/disclosure/harassment.html
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	大学全体のプログラムで大学院生が参加可能なものはそのつど紹介しているが、参加はほとんどない。むしろ指導教員が関係する研究活動や社会貢献活動に大学院生も参加するケースが多い。
年度目標	留学等の国際交流をより積極的に進める。
年度報告	成年後見制や学習支援の活動を行った院生がいる。外国人特別研究員の受け入れの際に交流の機会をもつことができた。
達成度	A
改善課題	院生は授業・研究と実習で多忙であるが、意義のある活動を紹介していきたい。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 2-5. 学修環境の整備	
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	心理学科棟(29号館)の各研究室・実験室を学科と共に用いて大学院演習室・大学院生研究室を設けている。日常の運営・管理は教員が行い、不備があれば施設・用度課と相談するようにしている。
年度目標	23号館に新たに開設されるこころの健康相談センターの運営を軌道にのせる。
年度報告	センターは一期工事が行われ、相談事業が開始された。
達成度	A
改善課題	2018年度末の二期工事を滞りなく進める。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	主に29号館のPC室、実験室を利用。自習や文献複写依頼のため図書館を利用している。
年度目標	公認心理師資格に必要な実習が可能となる相談室やカンファレンスルームの整備が急務である。
年度報告	センター一期工事により相談室は整備された。2018年度内の二期工事によりカンファレンスルームが整備される。
達成度	A
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	29号館へのエレベーターの設置など要望しているが認められない(手すりのみ設置)。野球場の騒音・打球の飛来、駐車場までの道の防犯灯設置等、気づいたことから要望している。
年度目標	新たに開設するこころの健康相談センターの整備が急務である。
年度報告	2018年度末にセンターの二期工事が行われた。
達成度	A
改善課題	センター完成を待つて効率的な運用方法を検討する。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	現状では院生が少ないので支障はないが、公認心理師をめざす院生が増えることも想定されるので、今から対応を考えている。

年度目標	新たに開設するこころの健康相談センターの整備が急務である。
年度報告	2018年度末にセンターの二期工事が行われ、院生用のカンファレンスルームなどが整備された。
達成度	A
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①こころの健康相談センター見取り図
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	心理学科棟(29号館)には危険物はないので、とくに管理システムは整備していない。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	A
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	全学の方針に従っている。全学の避難マニュアルは整備され、防災訓練も定期的に行われている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。全学の安全衛生管理に関するマニュアルは全面改訂される予定である。
達成度	A
改善課題	現状を維持する。

根拠資料	①福山大学安全衛生管理の手引き(http://www.fukuyama-u.ac.jp/archives/007/201703/%E7%A6%8F%E5%B1%B1%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E5%AE%89%E5%85%A8%E7%AE%A1%E7%90%86%E3%81%AE%E6%89%8B%E5%BC%95%E3%81%8D.pdf)
次年度の課題と改善の方策	
2018年度	人間科学研究科
中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	毎年、全研究科で「大学院の教育・研究に関するアンケート」を実施し、各研究科及び研究科長等協議会で分析結果を共有し、改善に役立てている。
年度目標	現状を維持する。なお、アンケートの内容は毎年見直しが必要と考えらえる。
年度報告	アンケートの内容を修正の上、全研究科で実施された。研究科長等協議会で結果の分析・検討が行われた。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①大学院の教育・研究等に関するアンケート(http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/disclosure/self-evaluation.html)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	学生の心身の健康保持・増進のために保健管理センターがある。保健管理センターには医師1名、看護師1名、心理カウンセラー1名が常駐し、定期健康診断の実施、保健・健康指導、カウンセリングなどの業務を行っている。保健管理センター職員による分析結果は評議会で報告される。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①保健管理センターHP(http://www.fukuyama-u.ac.jp/student-health-care/student-health-care-guide/soudan1.html)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	毎年、全研究科で「大学院の教育・研究に関するアンケート」を実施し、各研究科及び研究科長等協議会で分析結果を共有し、改善に役立てている。
年度目標	現状を維持する。なお、アンケートの内容は毎年見直しが必要と考えらえる。
年度報告	アンケートの内容を修正の上、全研究科で実施された。研究科長等協議会で結果の分析・検討が行われた。

達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①大学院の教育・研究等に関するアンケート(http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/disclosure/self-evaluation.html)
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

人間科学研究科

基準3. 教育課程

領域：卒業認定、教育課程、学修成果

2018年度

人間科学研究科

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・個性化をめざした大学院構想とそれに応じた教育目標等の見直しを進める。 ・国家資格(公認心理師)に対応したカリキュラムと教育方法を構築する。 ・心理学が関係するあらゆる分野で活躍する対人援助職の育成をめざす。 ・国家資格(公認心理師)に合格するレベルの教育をめざす。
-------	--

2018年度

人間科学研究科

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	公認心理師に対応して2017年度に改訂したものが2018年度学生便覧に明示されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①2018年度学生便覧(人間科学研究科ディプロマ・ポリシー)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ループリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに依拠した授業科目はそれぞれ到達目標をシラバス等で明示している。また、修士論文の作成に関しては修得すべき成果が学位審査基準として定められ、学生便覧に明記されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①2018年度学生便覧(人間科学研究科学位審査基準等) ②人間科学研究科シラバス
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	修士論文の審査及び単位認定はループリックに基づき厳正に行われている。一般の授業科目でも評価基準をシラバスで明示している。進級基準は設けていない。修了認定については、学則に規定された単位を修得または習得する見込みが確実な者、修士論文作成に関する指導を受けた者、以上の要件を満たした上で、修士論文について口答または筆答の最終試験を受け合格した者に修士号を授与することとしている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①2018年度学生便覧(人間科学研究科学位審査基準等) ②人間科学研究科シラバス
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

人間科学研究科

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	公認心理師カリキュラムに対応して2018年度から改訂された。学生便覧等で周知している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①2018年度学生便覧(人間科学研究科カリキュラム・ポリシー、カリキュラムマップ)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	心理の専門職を志向する方向で両者は一貫している。研究科のディプロマ・ポリシーである、様々な臨床の場における心理支援に関する専門家として活動する人材の育成を目指して、幅広い心理臨床分野の知識とスキル、さらには個人や社会の諸問題に関する解決能力の修得が可能となるよう、3つのワークのもとでカリキュラムを編成している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①2018年度学生便覧(人間科学研究科ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー)
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、コースワーク、リサーチワーク、キャリアワークの3つの分野で教育課程を編成している。いずれも、公認心理師資格にも対応している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①2018年度学生便覧(人間科学研究科年次別授業科目配当表、カリキュラム・ポリシー、カリキュラムマップ)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	専門教育に大きな比重をおいたため、教養教育は十分とは言えない。
年度目標	どのような教養教育が必要か検討が必要である。
年度報告	検討できなかった。
達成度	C
改善課題	教養教育、専門教育の位置づけについて検討する必要がある。
根拠資料	①2018年度学生便覧(人間科学研究科年次別授業科目配当表)
次年度の課題と改善の方策	研究科FDで、教養教育・専門教育の意義と位置づけについて討議する必要がある。また、一般常識、社会常識、マナー等を含め、どのような教養教育が必要か検討する。
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	各教員の工夫に任されているため、授業により差があると考えられる。
年度目標	研究科全体して情報共有をし、改善に努める。
年度報告	シラバスの相互チェックにより教授方法についての情報共有ができたことで、各自の改善につながったと考えられる。
達成度	B
改善課題	研究科全体としての情報共有と改善策の確認はできなかった。
根拠資料	①人間科学研究科シラバス
次年度の課題と改善の方策	シラバス点検の際に、有効な教授法について、全体での情報共有ないし情報交換を行う必要がある。
点検項目	⑥ ディプロマポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	研究的視点をもつ心理の専門職を養成するという方向は一致していると考えられる。
年度目標	修士論文のあり方については要検討課題である。
年度報告	修士論文は従来通りループリック評価で研究論文として評価を行うことになった。
達成度	A

改善課題	現状通りとする。
根拠資料	①2018年度学生便覧(人間科学研究科学位審査細則)
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

人間科学研究科

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	ポリシーはそれぞれの授業科目に反映され、それぞれの授業科目で到達目標を定め、試験等でその達成度を評価するというしくみになっている。毎年のシラバスチェックでそれを検証している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	シラバス作成に当たり、学習成果の評価方法について研究科FDを行い、教員が共通認識をもてるようにした。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①人間科学研究科シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	不十分である。
年度目標	今後の重要検討事項としたい。
年度報告	学習成果の点検は行えなかった。
達成度	C
改善課題	評価をするにとどまっているので、その妥当性についての研究科としての検討が必要である。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	研究科長等協議会で検討し、大学院全体として実施する必要がある。なお、点検・評価結果のフィードバック方法として次の事を実施する。「大学院の教育と研究等に関するアンケート」により院生の意見を聴取し、その結果を教員間で共有し、研究科委員会で検討、院生へもフィードバックする。

2018年度

人間科学研究科

基準4. 教員・職員

領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2018年度

人間科学研究科

中長期計画	・教育・研究・社会的活動のバランスを図れるような協力・支援体制をつくる。 ・国家資格(公認心理師)に対応した教育研究組織を構築する。 ・心理学科と研究科との協力体制を強固にし、調整を円滑に行う。
-------	---

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	学長ガバナンスは浸透している。研究科の教育研究に関する重要案件、運営については研究科委員会で決定することとしており、研究科長が責任をとる。また、全学の連携のために研究科長等協議会があり、学長からの諮問を受け、答申を行っている。
年度目標	研究科長としてのリーダーシップは発揮しにくい状況も生まれてきているため、役割の周知と協力体制の再構築に取り組む。
年度報告	国家資格への対応など業務が増加したが、研究科長のリーダーシップはある程度発揮された。
達成度	A
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	業務分担は行っているが、それぞれの権限と責任は明確ではない。
年度目標	個々の教員の権限・役割をより明確にすべきである。
年度報告	国家資格の導入により実習担当業務が増加したが、権限と責任はほぼ明確であった。
達成度	A
改善課題	教員の異動があるため、権限と役割について見直し、組織の体系化をはかる必要がある。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	上記の理由から、教学マネージメントの機能性は高いとは言えない。各教員の業務分担の権限と責任を明確にして、より機能性を高める必要がある。
年度目標	個々の教員の権限・役割をより明確にすべきである。
年度報告	業務分担は行っているが、それぞれの権限と責任は明確ではない。
達成度	B
改善課題	業務分担を行いつつ、横の連携と協力が十分にできていない。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	業務の主担当の責任と権限を明確にしたうえで、教員が連携・協力していく必要がある。

中点検項目 4-2. 教員の配置・職能開発等	
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	いずれの教員も教育・研究活動と社会的活動ないし臨床活動の両面で活躍しており、適切な配置と言える。また、職階比、年齢構成、ジェンダー比も適切である。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	教員の採用人事も適正に行われた。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	確保している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	退職者数に対して1名の純増であった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①大学設置基準
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	研究科独自のFDを年に2回以上、全体でのFDも1回以上行っている。また、人間文化学部のFDにも参加している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①人間科学研究科FD実施報告
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 4-3. 職員の研修	
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	大学全体として行っているものに極力参加するようにしている。研究科独自には行っていない。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目 ② 大学運営の効率改善のために ICT の活用を推進していますか。	
現状説明	ゼルコバ、セレッソなどは、授業以外の大学運営にも活用されている。
年度目標	ICTの活用を、どのような目的でどのように進めるかの共通認識をつくる。
年度報告	情報共有はおおむね行えたが、研究科の運営に十分な情報交換は行えなかつた。
達成度	A
改善課題	共有した情報を吟味するというプロセスをふむ必要がある。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 4-4. 研究支援	
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	教員には裁量労働制が適用されているが、校務が多いために研究時間の確保が厳しいのが現状である。研究室環境は冷暖房・照明等良いとは言えない。
年度目標	改善を要求したい。
年度報告	種々の改善要求を出しているが、対応が遅い場合が多い(街灯の修理など)。
達成度	B
改善課題	まだまだ不十分な点があるので、研究科委員会などで改善すべき事項を聴取し、改善に向けて努力する。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	改善すべき点について定期的に情報収集を行い、解決方法について話し合い、実行する。

点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	コンプライアンス研修が院生も含めて行われている。また、個々の研究は必要に応じて、福山大学研究倫理審査を受けることになっている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①福山大学学術研究倫理審査委員会規程 (http://www.fukuyama-u.ac.jp/archives/007/201605/%E7%A6%8F%E5%B1%B1%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E5%AD%A6%E8%A1%93%E7%A0%94%E7%A9%B6%E5%80%AB%E7%90%86%E5%AF%A9%E6%9F%BB%E5%A7%94%E5%93%A1%E4%BC%9A%E8%A6%8F%E7%A8%8B.pdf)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	個人研究費は研究業績(科研費等外部資金受託の有無)に応じてランク分けされている。外国出張旅費、留学、学内助成金等には自由に応募できる。
年度目標	科研費等外部資金をできるだけ多くの教員が受託する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	A
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	特なし。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか
現状説明	整備され、周知されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①福山大学研究関連ガイドブック (http://www.fukuyama-u.ac.jp/archives/047/201707/guidbook.pdf)
次年度の課題と改善の方策	

基準6. 内部質保証**領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル**

2018年度

人間科学研究科

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な自己点検評価を行う体制の構築。 ・PDCAサイクルの確立。 ・学生募集、教育内容・方法、学修成果の評価を重点的に点検する。

2018年度 人間科学研究科

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	全学の自己点検評価委員会、学部自己点検評価委員会、外部評価委員会の指揮のもとで進められる。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①福山大学自己点検評価規程 ②人間文化学部自己点検評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	

2018年度 人間科学研究科

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	毎年の自己点検評価には研究科の教員全員がかかわり、報告書の内容を共有している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①平成29年度人間科学研究科自己点検評価書(http://www.fukuyama-u.ac.jp/archives/007/201810/H29-20_GS_Human_Science.pdf)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	本学では組織的なIR活動が行われてこなかったため、十分なデータの蓄積がない。研究科単位でのデータも不十分である。
年度目標	2018年度よりIR室が開設されることになり、研究科としても連携が必要である。

年度報告	研究科委員会議事録等、データの蓄積が必要なものを順次カリンに登録する予定である。
達成度	A
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

人間科学研究科

中点検項目 6-3. 内部質保証の機能性	
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	自己点検評価の結果をもとに、研究科委員会で対応策を検討することにしている。しかし、その機能性の検証は行われていない。
年度目標	PDCAサイクルがうまく機能しているかの検証を行う必要がある。
年度報告	年度末の研究科委員会でPDCAサイクルの現状と課題を検討した。
達成度	A
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①平成30年度人間科学研究科自己点検評価書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目 ② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。	
現状説明	全教職員に対するコンプライアンス研修が行われている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状通りであった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①公的研究費の管理・監査等体制 (http://www.fukuyama-u.ac.jp/archives/047/201503/Management_and_audit/etc_system_of_public_research_funding.pdf)
次年度の課題と改善の方策	

基準7. 福山大学ブランディング戦略**領域：本学独自基準と点検・評価**

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・福山大学の一翼を担う研究科の1つとして福山大学のブランディング事業にも協力する。 ・学部、研究科を超えた研究の交流を進める。 ・院生の研究力を高める。 <p>具体的には、地域住民の心の健康、安全・安心な地域社会の創出に関する研究を推進していく。</p>

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	<p>① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。</p>
現状説明	「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成する」という福山大学ブランディング戦略の方針について、研究科FD等により周知を進めている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	ブランディング戦略に関する研究科FDを開催した。
達成度	A
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	<p>①福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト(http://www.fukuyama-u.ac.jp/research/project/branding.html)</p> <p>②人間科学研究科FD報告書</p>
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<p>② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取組んでいますか。</p>
現状説明	社会貢献と福山大学の独自性の観点から、教員と学生の活動や研究を通して、地域の安全・安心な環境づくりと心の健康づくりに取り組んでいる。
年度目標	他大学の心理系大学院との区別化を図ることは本研究科の重要な課題である。
年度報告	院生と教員はそれぞれの研究フィールドをもち、社会貢献をめざす実践的研究を推進した。
達成度	A
改善課題	人間科学研究科としてのブランド戦略はまだ不十分である。
根拠資料	①心理学科研究者一覧 (http://www.fukuyama-u.ac.jp/faculty/human/)
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	本研究科は公認心理師資格に対応した大学院を標榜しているが、これだけでは他の大学院との差別化は難しく、国際化や未来創造の方向性も希薄である。
年度目標	地域社会、国際社会につながる研究科の特色を打ち出せるよう研究科で議論する。
年度報告	各教員はそれぞれの分野で努力しているが、院生の教育実践力の向上という点では不十分である。
達成度	B
改善課題	人間科学研究科のブランディング戦略を明確にして、院生と教員との協同、教員間の協同を進める必要がある。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	人間科学研究科としてのブランディング戦略を具体化し、研究体制を構築する。
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目指しています。この目標の実現に向けて、どのように取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	教員や院生はそれぞれが社会貢献・地域連携活動を行っているが、「福山大学人間科学研究科」のブランドを打ち出すほどのまとまりがないのが現状である。
年度目標	こころの健康相談センターを中心として、研究科としてのブランド力の向上＝特色づくりをめざす。
年度報告	こころの健康相談センターの完成は道半ばであり、ブランディング戦略の拠点になりえていない。
達成度	B
改善課題	文ランディング戦略の拠点としての位置づけが不明確である。
根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	こころの健康相談センターが2019年度から本格始動するのに合わせて、知の拠点となりえるような取り組みを結集させる。
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	公認心理師資格に対応した大学院として、地域で活躍する公認心理師等、心理の専門職の育成を目的の中心に掲げている。
年度目標	上記の目標に向けて中期・短期の目標を設定し、成果を検証できるようにする。
年度報告	公認心理師対応のカリキュラムをスタートさせ、実習指導体制を整備するとともに客観的指標となるOSCEを導入した。
達成度	A
改善課題	実習指導体制について、すべての教員と院生に理解されているわけではなく、指導が徹底していない。

根拠資料	特になし。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	① 福山大学プランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	教員と院生は地域のニーズに応える形で、様々な心理臨床活動や地域貢献活動に従事している。しかし、教育研究の成果として見えにくいのが実情である。
年度目標	個別の心理臨床活動を、教育研究の成果として可視化する方策を検討する。
年度報告	個々の教員が情報発信するにとどまった。
達成度	B
改善課題	人間科学研究科の教育研究の成果として、何らかの形でまとめる必要がある。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	人間科学研究科のプランディング戦略を明確にしたうえで、「人間科学研究科の」教育研究の成果として、何らかの形でまとめる必要がある。
点検項目	⑦ 福山大学プランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	本学の全人教育の理念に即して、現代社会における心の健康に関する理解を深め、高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力及び様々な臨床の場に対応できる対人援助実践力を修得した人材を養成することを研究科の目的としている。そのために、研究力と対人援助実践力を併せ持つ人材養成を念頭においてカリキュラム構成としている。
年度目標	当面は公認心理師受験資格を得るための実習の評価と、修士論文の評価で成果を検証する。
年度報告	公認心理師対応の初年度として、実習と修論の進捗には院生による個人差が見られた。
達成度	A
改善課題	実習と研究のバランス、連結がうまくいっていない院生が存在するが、過半数は予定通り進めている。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

人間科学研究科

中点検項目	7-2. 福山大学プランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	直接的には参加していない。
年度目標	参加の可能性を検討する。
年度報告	公認心理師資格の導入が優先されたため、全学のプロジェクトへの参加については検討できなかったが、担当副学長を招聘して全学のプロジェクトについての学習会(FD)を行った。
達成度	A
改善課題	全学のプロジェクトへの参加も引き続き検討する必要がある。

根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	全員が科研費には申請している。学内研究助成にも数名が応募している。間接的には関連があつても、福山大学ブランディング研究という位置づけは明確ではない。
年度目標	科研費等の公的資金、学内助成金の採択率を高める。
年度報告	採択率は現状維持であったが、福山大学ブランディングにつながる研究も複数ある。
達成度	A
改善課題	福山大学(人間科学研究科)のブランディング戦略との関連はあまり明確でない。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	学術雑誌への投稿、学会発表を中心に社会への公表を行っている。
年度目標	査読付き論文を増やす。
年度報告	ほぼ横ばいであった。
達成度	A
改善課題	個人差があるため、全員が業績をつくるような動機付けと環境整備が必要である。
根拠資料	①心理学科研究者一覧 (http://www.fukuyama-u.ac.jp/faculty/human/)
次年度の課題と改善の方策	